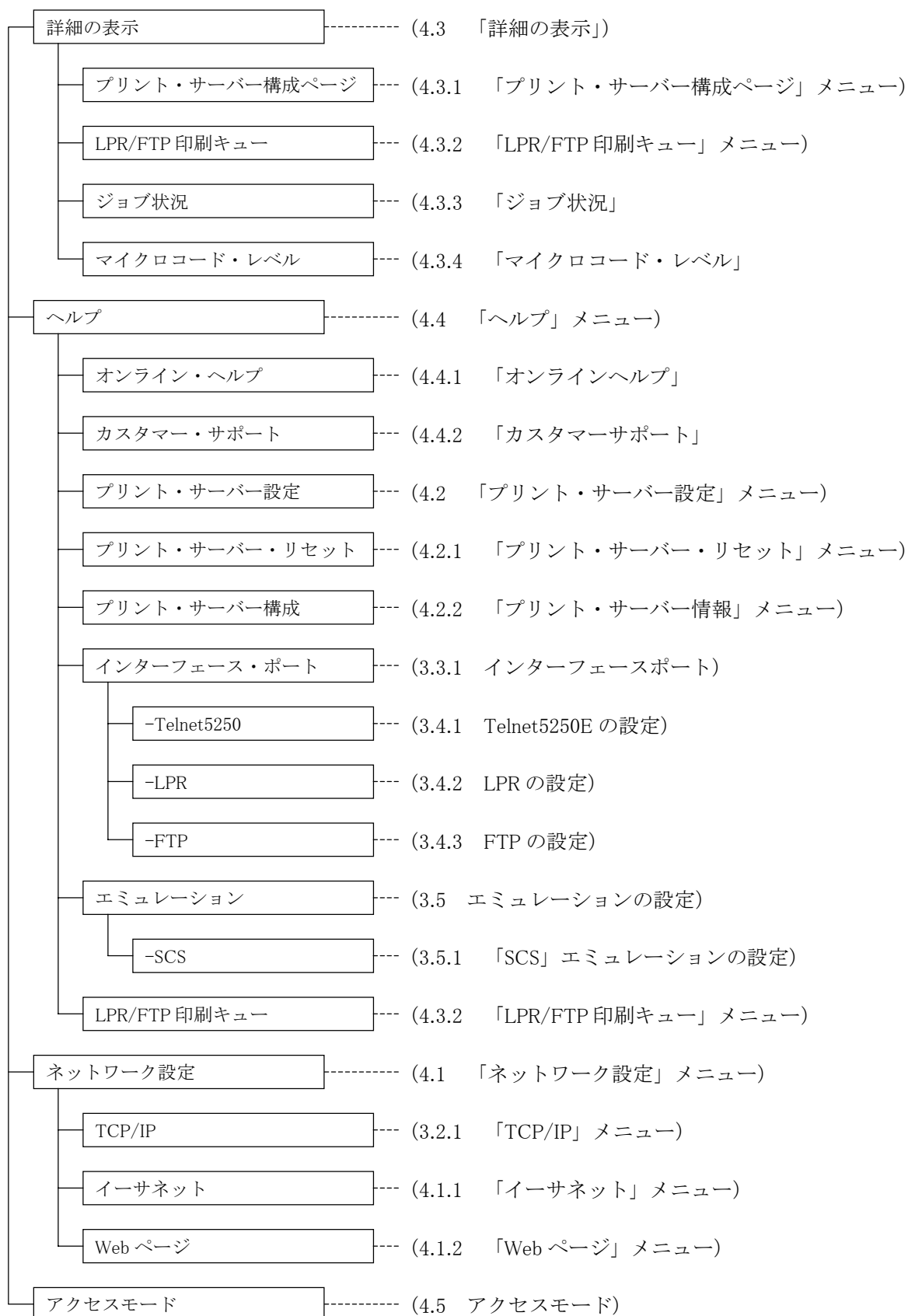


第4章 詳細設定

5400 エミュレーターの Web ページメニュー構成と、これまでに、解説されていない項目について説明します。



4.1 「ネットワーク設定」メニュー

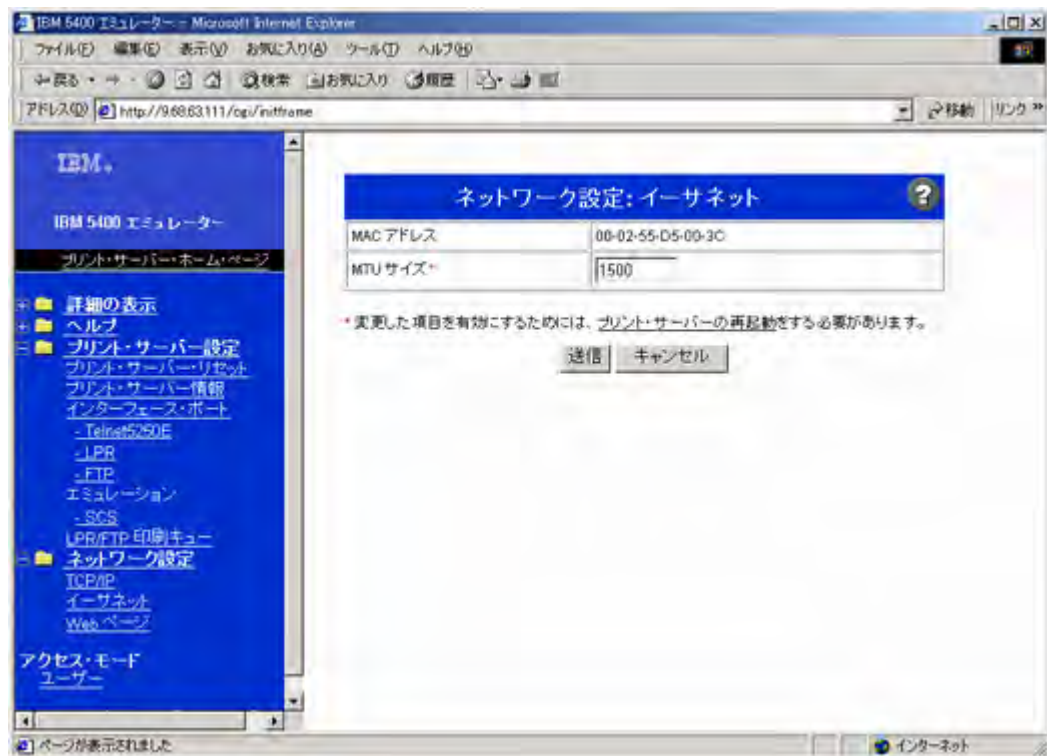
「ネットワーク設定」の文字をクリックすると、「TCP/IP」、「イーサネット」、「Web ページ」のメニューが表示されます。「TCP/IP」メニューについては、“3.2.1 「TCP/IP」メニュー”を参照してください。「イーサネット」、「Web」ページメニューについて説明します。

4.1.1 「イーサネット」メニュー

「イーサネット」の文字をクリックすると表示されます。

- MAC アドレス
5400 エミュレーターの MAC アドレスです。5400 エミュレーターのシリアル番号と同一です。
- MTU サイズ
最大伝送単位 (MTU) - IP パケットの許容される最大長 (バイト) を指定します。MTU サイズを指定できます。

値	60-1500
初期値	1500



4.1.2 「Web ページ」メニュー

「Web」ページの文字をクリックすると表示されます。

- ヘルプ・デスク

名前や電話番号や Web サイトのようなローカルなサポート情報を設定します。インターネットアドレスを入力する時には、“http://”を忘れずに入力してください。この情報は、「ヘルプ」の下にある「カスタマー・サポート」ページに表示されます。

プリンターの管理者名や設置場所を入力するには、「プリント・サーバー」の下にある「プリント・サーバー構成」をクリックしてください

- Web ページ管理者 ID

Web ページの管理者モードに入るための管理者のユーザーID を指定してください。初期ユーザーID は“admin”です。

長さ	1-8 文字
初期値	Admin

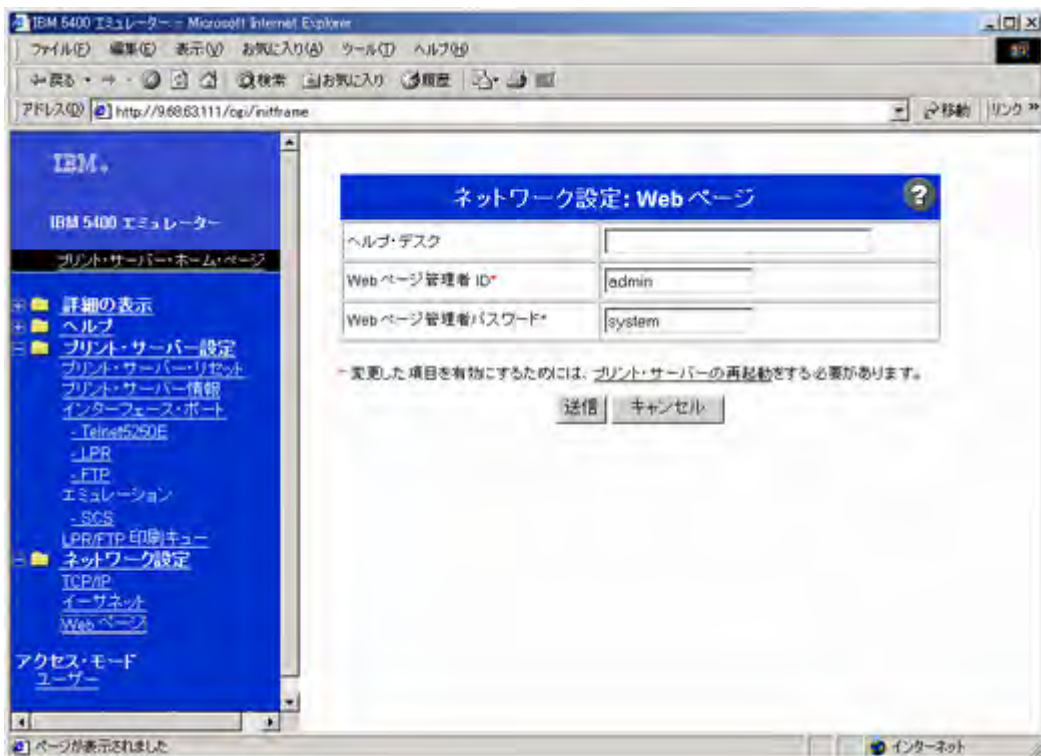
- Web ページ管理者パスワード

Web ページの管理者モードに入るための管理者のパスワードを指定してください。初期パスワードは“system”です。

長さ	1-8 文字
初期値	System

システム管理者の方へ

管理者の初期ユーザーID は“admin”、パスワードは“system”です。システムを管理される方は、「管理者」メニューから「ネットワーク設定」「Web ページ」を順に選択して、初期ユーザーID および初期パスワードを変更することをお奨めします。



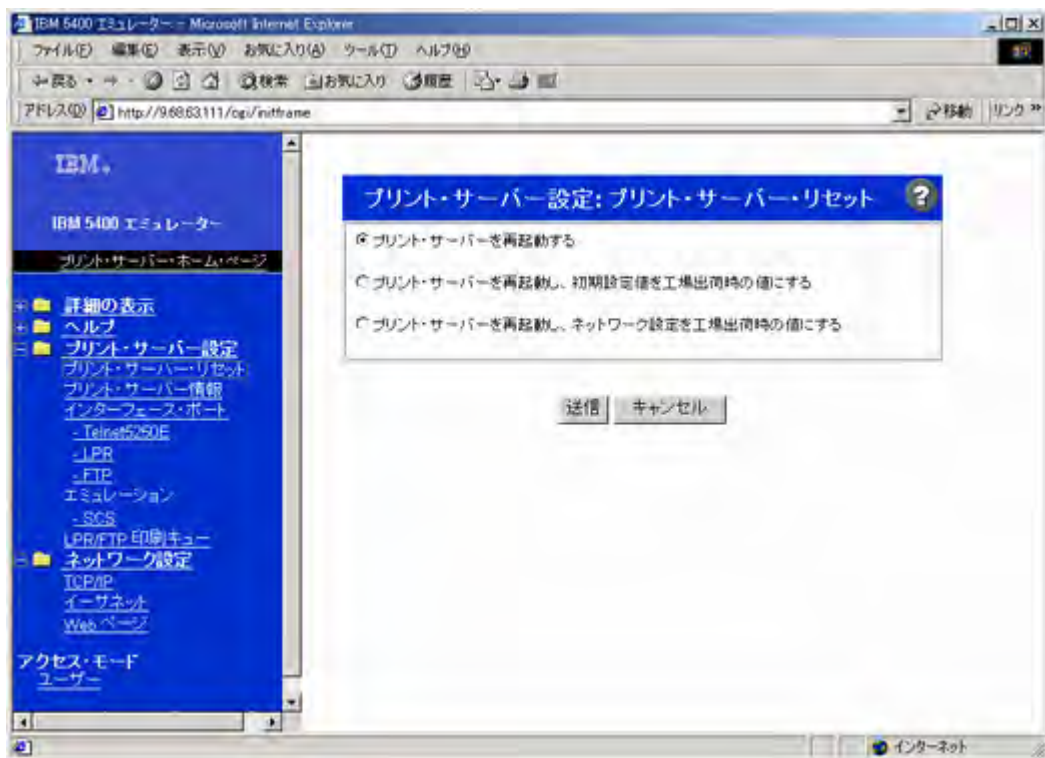
4.2 「プリント・サーバー設定」メニュー

「詳細の表示」メニューからは、以下のページが表示できます。

4.2.1 「プリント・サーバー・リセット」メニュー

「プリント・サーバー・リセット」の文字をクリックすると表示されます。

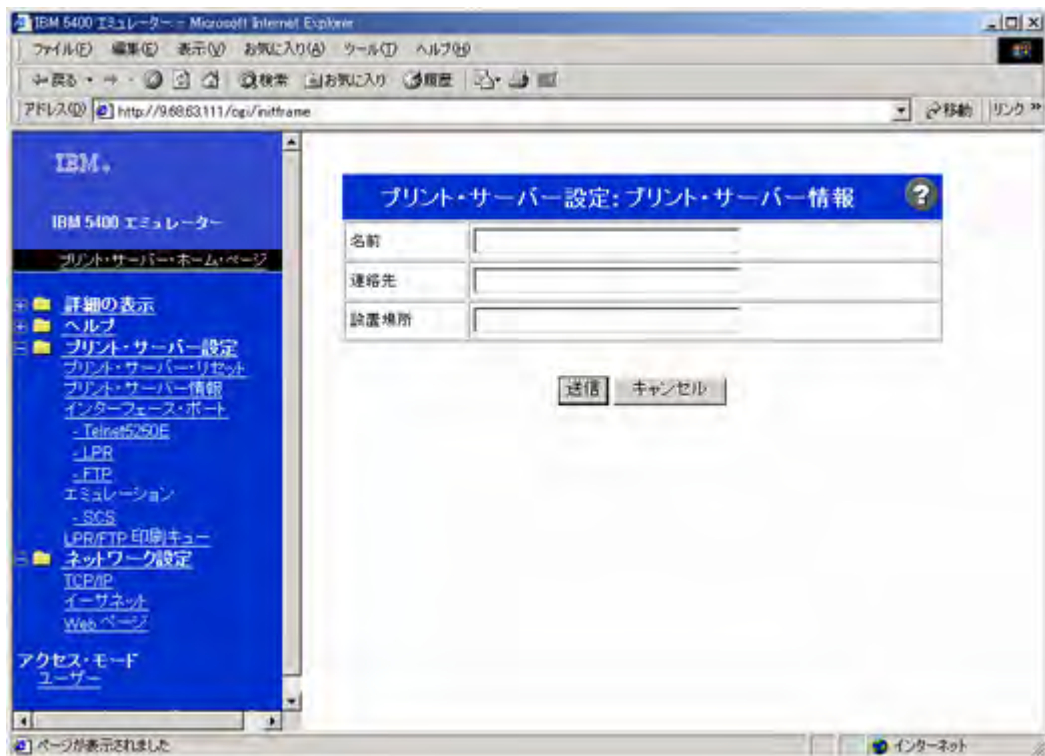
- プrint・サーバーを再起動する
プリント・サーバーを再起動します。
- プrint・サーバーを再起動し、初期設定値を工場出荷時の値にする
プリント・サーバー再起動し、初期設定値を工場出荷時の値にします。インターフェース・ポートの値と、ネットワーク設定はリセットされません。
必要なときに、設定値を元に戻す事ができるように、プリント・サーバー構成ページを印刷することをお奨めします。
- プrint・サーバーを再起動し、ネットワーク設定を工場出荷時の値にする
プリント・サーバーを再起動し、ネットワーク設定値を工場出荷時の値にします。ネットワーク設定以外の初期設定値はリセットされません。
必要なときに、設定値を元に戻す事ができるように、プリント・サーバー構成ページを印刷することをお奨めします。



4.2.2 「プリント・サーバー構成」メニュー

「プリント・サーバー構成」の文字をクリックすると表示されます。

- 名前
プリンターの名前・管理者の名前等を指定します。この情報はプリント・サーバーのホームページに表示されます。
- 連絡先
プリント・サーバーの使用者が、プリント・サーバープリンターについての援助が欲しいときの連絡先を指定します。この情報はプリント・サーバーのホームページに表示されます。
- 設置場所
プリント・サーバーの設置場所を指定します。この情報はプリント・サーバーのホームページとブラウザのタイトルバーに表示されます。



4.2.3 「LPR/FTP 印刷キュー」メニュー

「LPR/FTP 印刷キュー」の文字をクリックすると表示されます。

- 印刷キュー名

印刷キューの設定を行うキューを選択します。5577 データストリーム印刷キューと、ESC/P 印刷キューが選択できます。

- 印刷キュー詳細

印刷キュー毎に、印刷データの先頭に付加するコマンドをヘッダー用コマンドにて、印刷データの後に付加するコマンドをトレーラー用コマンドにて設定することが出来ます。

ここで、コマンドを付加すると、行ピッチ・文字ピッチ等を印刷キュー毎に設定することが出来ます。

また、行端に改行・復帰が付加されないシステムからの印刷を行う場合には、LF を CR+LF に変換、CR を CR+LF に変換が出来ます。また、ファイル終端に FF (改ページ) を付加する事も出来ます。

- ヘッダー用コマンド

印刷データの前に付加するコマンドを指定します。コマンドは、16 進データをテキストにて入力します。例えば、改行ピッチに 2LPI を指定：“1B7E03000114”。128 文字まで入力できます。

- 改行・末端処理

LF (LineFeed) コマンドを CR (CarriageReturn) + LF (LineFeed) に変換、CR (CarriageReturn) コマンドを CR (CarriageReturn) + LF (LineFeed) に変換、ファイル終端に FF (FormFeed) コマンドを追加する事が出来ます。各処理を行う場合には、チェックボックスをチェックします。LF 変換と CR 変換は同時に選択する事は出来ません。

- トレーラー用コマンド

印刷データの後に付加するコマンドを指定します。コマンドは、16 進データをテキストにて入力します。末端処理 (データの最後に FF を付加する) が指定されている場合、FF を付加した後に、ここで指定したコマンドを付加します。128 文字まで入力できます。

